

生体制御科学専攻 機能制御学講座

心臓血管外科学分野

Department of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科のGLOBAL STANDARD を求めて 岡山から世界へ



臨床の現場には膨大な数の患者と、それぞれの患者に対する治療、そしてその結果があります。それらは統計的に処理を行い、あるときは大規模試験としてエビデンスを提供します。しかし、それらで説明できない結果が必ず隠れています。今の医学では説明ができない、また解決ができない問題、疑問があるから、探求することにより、新たな発見・次世代の医療が生まれてくるのです。当分野では、重篤な小児心不全に対する臓器移植が進まない我が国での、代替医療としての再生医療の開発が急務と考えています。現在、世界に先駆けて心臓内自己幹細胞を用いた小児心不全への細胞治療に関する第一相臨床試験の実施に成功し、今後標準治療化に向けて着実に進んでいます。

■ 大学院の目標

心臓血管外科の臨床領域を経験しながら、豊富な研究テーマより「究める」力を身につけ、心臓血管外科医としてのアカデミックな考え方、またたゆまぬ探究心を培うことを目標としています。

■ 大学院大学としての取り組み

今までの大学院のイメージは過去のもので、

■ 激変を遂げる大学院(現在)

- 1) 大学院大学として他(多)教室との共同研究(知識の多様化)
- 2) 市中病院ではありえない有意な臨床経験(専門医への修練)
- 3) 経済的な安定(医師としての収入確保)が研究に没頭できる最低条件
- 4) 知識を「使う」ではなく「考える」を習得する(医学博士号)
- 5) 卒業後の進路のバックアップ(医局は関係なくステップアップ臨床研修、海外留学など)
- 6) 時間をかけてアカデミズムを追求し、最後の自己研鑽ができる時間(学生生活)



心臓血管外科ほど臨床の成績が明らかな診療科はありません。腕の差は成績に反映し、良きにつけ悪きにつけマスコミをにぎわしています。

私は幸いにして1985年から1990年までSir Brian Barratt-BoyesとRoger Meeという世界でも超一流の腕を持つ心臓外科医に師事することができました。

外科医として手術に望む態度、救命のためには決して妥協しない、あきらめない姿勢、そして新しい治療法へのチャレンジ、これらのことを師から学びました。もう一つ大切なことも学びました。それは教育、若い心臓外科医を育てることです。若い人を教育するにはまず自分が模範になるような心臓外科医になることです。若い心臓外科医達の憧れの人になるには自分自身が常に努力、向上していなければなりません。

このような姿勢で今まで治療、教育、研究を行ってきました。私達をたよってこられる患者様に世界のトップレベルの医療を提供すること、入院して手術を受けられた方が全員笑顔でお家に帰られること、これが私の目標であり、一緒に働いている心臓血管外科医、小児科医、循環器内科医、麻酔科医、看護師、人工心肺技師など我々の仲間すべての願いです。地域の方々の心臓病の治療が中心になりますが、ここでトレーニングを受けられる若い医師、特に心臓血管外科医はプロフェッショナルな心臓血管外科医として、世界に羽ばたいてほしいと願っています。

連絡先

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 心臓血管外科学(佐野 俊二)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 基礎研究棟2階

TEL:086-235-7359

FAX:086-235-7431

E-mail: miho@md.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/cvs/index.html>